

見て、吾々是一段と心に何物か力強きを覺へたのであつた。思ふに今年は戦局は一段と苛烈慘愴の度を加へて來ることは必定である。敵米英は今や全力を擧げて總反攻に出で居るのである。而して近代戦は一大消耗戦であると共に一大補給戦であるに思ひを致せば、何を偕て置いても戦力に必要なものを緊急増産をせなければならぬ。而して之れが最大限の能率發揮を圖つて前線の要求を満たさなければならぬことは多言を要しないのである。而して圓滑に生産の増強を圖るには輸送關係が影響するところ至大であるが、殊に道路の發達は海運並に鐵道と相俟つて一面に於いてはこれが島の兩翼軍の兩輪の如く密接の關係を保持し、又一面に於

佐上さんを憶ふて

田中好

佐上さんが突然亡くなられた、人生何れ辿らなければならぬ道程であるにしても餘りに早や過ぎる、人生五十と言つたのは昔のこと、今は八十に向上してゐるからだ、私が佐上さんの知遇を得たのは道路法立法直前のことであつた。當時内務省の道路課長をされてゐて、私は其の部下として厄介になつたもので、夫れ以來今日まで指導を受けてゐた。

いは道路其ものの單獨以て輸送の増強となるのであると思はるゝが故に、この方面に従事して居る所謂土木關係者は其の職務に精進すれば各物資の補給が圓滑となつて、畢竟これが戦ひに勝つために甚大なる効果を擧げる所以であると筆者は確信して居る。繰返しまでもなく、關東土木出張所長山下氏以下各位の好意に依つて、吾々は第一線に働いて居る現場を詳さに視察して、専門家でない筆者達には技術的に至つて克く描寫するを得ざるも其の人達の所謂職域に渾身の努力を致して居ること並に其の竣工箇所實質に整然齊備たるを思はしめたのであつた。「以下次號」

此やうな關係で、道路法と聞くと直に佐上さんを聯想する位に、道路と佐上さんとは不可分の關係にあるやうに思惟するるのであつて、同氏が我國道路政策樹立の爲に貢獻されたことは著大である。古いことを言ふやうであるが、明治の初年から道路法を制定しやうと言ふ主張は、歴代の内閣で繰返されたことで、或内閣の如きは之を議會に提出したこともあつたが、色々な事情に妨げら

れて成立しなかつた。併し歐米で自動車交通が發達してゐる趨勢を見ると、どうしても道路法を制定せなければならぬと言ふことに爲つて、之に力齧を入れたのは、例の有名な土木局長堀田眞氏であつた、併し當時の立法は今のやうな出鱈目式御粗末な一時凌ぎの立法では、到底議會を通過しなかつた。一つの法律を作るにしても並大抵のことではなかつたのである。道路法にしても、王朝時代から徳川時代の古典を研究して、我國交通の將來を想定し、恒久的政策を樹立して、夫れを基礎として立法したのである。従つて立法には學究的研鑽が要請されたものだ、道路法を制定するに就て、此學究的研究の重任を擔當されたのは、佐上さんであつた。道路法が出来たのは佐上さんの力であると言はるゝ所以に、に在るのである。其の研究苦心の程は、今も尙私の腦裡に深く刻まれてゐる、赤坂高樹町から、大手町の内務省へ通はれた電車の中で、各國の道路史や道路經濟學を繙いてゐる内に、いつの間にか電車の終點まで乗越してゐると言ふ有様で、之が何回繰返されたか判らない位の熱心さであつた。いまの世、東條さんの要求する理想的な役人を描出すると、當時の佐上さんの行動であつたと思はれる。

立案に着手された道路法は、佐上さんの研究を基礎として日毎に各法條が決定されて行く、理論と實際との調和、古い固有の史實と將來交通との聯絡など、實に理想的に編制されたものだ、當

時道路法が我が法學界に於て模範的な立法として賞えられたのも、全く氏の努力の賜であると言つても過言ではない、此劃期的な立法が、對立的鬭争をこゝとした政民兩黨ともに、文句なしに是認され帝國議會を通過したのは、氏の涙ぐましい研鑽の結果である。いまの世、議會で法律案が審議されるとき、政府委員が議員の質問に答辯することが出来得ないで、遂に總理大臣を引張り出し、總理の釋明で漸く議會を通過すると言つた醜態と雲泥の差があるであらう。

當時は今と違つて歐米熱に浮かされたものだ、優秀な書記官は一度は歐米に出張して新知識を吸收せなければ將來性が無いものとされてゐた。従つて此視察出張に採用して貰いたいと言ふ運動は、随分露骨に行はれたもので、師弟や同郷の關係で上司に迫るやう、野卑なものになると閥閥縁故を頼つて拜み倒しの運動をしたものだ。いま大官づらしてゐる某氏の如きも閥閥のお蔭で其の選に入つた位だ、此雲圍氣中にあつて、佐上さんは超然としてゐたが、いかに情實の運動が行はれたにしても、執務の熱心さで衆目の的となつてゐた佐上さんを疎外することは出来なかつたと見え、遂に佐上さんにお鉢が廻つて來た。喜んで受けるかと思はれたが、道路法を完成するまでは御免蒙ると言つて辭退した、同僚の巧利的な連中は笑つたさうだが、其のお蔭で後輩が思はぬ儲けものをしたと言ふ逸話もある。夫れは兎も角、内務次官小橋一太

は、佐上さんの此行動に惚込んで、吾が部下に此男ありと各方面に吹聴して廻つたとも言はれてゐる。口では責任感のあるやうな立派な理屈を言ふが、自分の榮達の問題となると、與へられた職務を放棄して榮轉運動に浮身を糞すもの、責任回避に汲々たる者の多い現在の官吏連中に、佐上さんの眞似を強めることは無理かも知れないが、東條さんの希望もあることであるから少しは反省して貰いたいのだ。

地方長官としての手腕や功績に就ては、他に物語る人があるであらうから私は遠慮するが、佐上さんの持つ固有の熱と馬力とで、地方政治に活躍されたことは想像するに難くない。私の選挙地盤だけに就て見ても、多年の懸案であつた大京都市の建設を難なく解決されてゐることも判る。だから到る處で功績を残されてゐることは確立する迄もない、唯だ私が残念に思ふことは、北海道廳長官を官吏生活の最終點たらしめたことだ。或は在官中に一部の策士が施政を誤らしめたと言ふ人もあるが、夫れは永年に互つて佐上さんの性格を熟知する私の斷じて同意し難いところであつて、此ことを特に天下に聲明しておく。當時氏の持つて居られた熱と意氣とは以て天下に利用し得たであらうに、又之を認識して居られた先輩もあつた筈であるのに、惜しいかな之を起用し得なかつたことは、國家の損失であつたと言はざるを得ない。佐上さんの友人で、或は台閣に列し又は貴族院議員の椅子を占めてゐる

人もある。夫等の人々の人格や智能乃至は手腕と、佐上さんの夫れとを較べて、國家的に何れを採るかを判斷する機關があつたとしたら、恐らくは疾に其の地位を占められてゐたであらうことを想ふとき、勅選議員銓衡等の制度の缺陷を痛歎するのである。夫れは兎も角、有爲の人材を國防協理理事と言ふやうな枠内で終らしめたことこそ、返す／＼も遺憾であつた。

私は佐上さんが一個の役人ではなくて、我國道路政策樹立の功勞者として、佐上さんの在つたことを後世に残して置きたい。喧ましかつた道路の性格論——國家營造物主義と自治體營造物主義との採否が解決されて、前者が現代戰時の交通要請に適應してゐることを想ひ、更に一面交通政策の根幹を形成する道路網の設定が、此後數千年の久しきに互つて其の効果を擧げ得ることを稽ふるとき、路政の一大恩人として國家又は民衆が、氏に感謝すべきものがあるからである。

今や大東亞共榮圈の建設が強調され、之が爲に多くの人材を要請さるゝとき、多くの抱負を持ちながら忽然として逝かれた、私情宛に哀悼の情に堪へないと同時に國家の爲惜しむのである。併し道路の存する限り氏の残された功績は益顯はるゝであらう。又夫れと同時に個人主義的官吏に何等かの指針を與ふるであらう。

(十二月二十三日御通夜に列して)